

No.83

すくらむ

2015.3.2 発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P1

業務から
嶺南教育事務所特別支援教育課の業務

P2

授業のユニバーサルデザイン化の取組
～鯖江市の実践～

P3

特別支援教育で活用できるICT教材の紹介
～中学校・英語編～

P4

シリーズ研修の報告
～特別支援教育コーディネーター養成研修～
実践研究発表会 報告

業務から 嶺南教育事務所特別支援教育課の業務

特別支援教育課では、嶺南における「福井型18年教育」の更なる推進に取り組むため、「就学指導や教育相談業務等を通して、一人一人に合った適切な教育体制充実への支援」を方針として、「適正な就学相談と個に応じた巡回指導・教育指導」「校内研修の充実と教育体制づくりの支援」「インクルーシブ教育システム構築に向けた就学指導体制の推進」「教育・福祉・医療等関係機関との連携強化による地域の支援体制充実」の4点を重点目標として取り組んでいます。

特に、教育指導のひとつである「グループ教室」は、集団の学びでやや気がかりさのある、通常学級に入学予定のお子さんを対象に、10名程度のグループで指導するもので、全8回程度実施しています。小学校での45分間の授業時間を想定し、1年生の授業のプレ段階の内容を設定しています。回を重ねるごとに、「静かに聞いて」と子どもたちの中からことばがけが出てくるなど、集団で学ぶということを意識できるようになっています。保・幼と小の連携を密にし、小1プロブレムに対応すべく「福井型18年教育」に取り組んでいます。



現在、学校・園では、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、粛々と準備を進められていることと思います。今後、教育上支援を必要とする子どもたちへの「基礎的環境整備」や「合理的配慮」といった観点からの支援や配慮についても、本人・保護者と丁寧に話し合っていくことが望まれます。インクルーシブ教育システムの構築を目指して、充実した多様な学びの場を提供できるよう、特に、現場の管理職をはじめかかわる者すべてが、支援や配慮について真摯に向き合い、既成の意識から脱却することが大切なのではないでしょうか。

1 鯖江市の取組

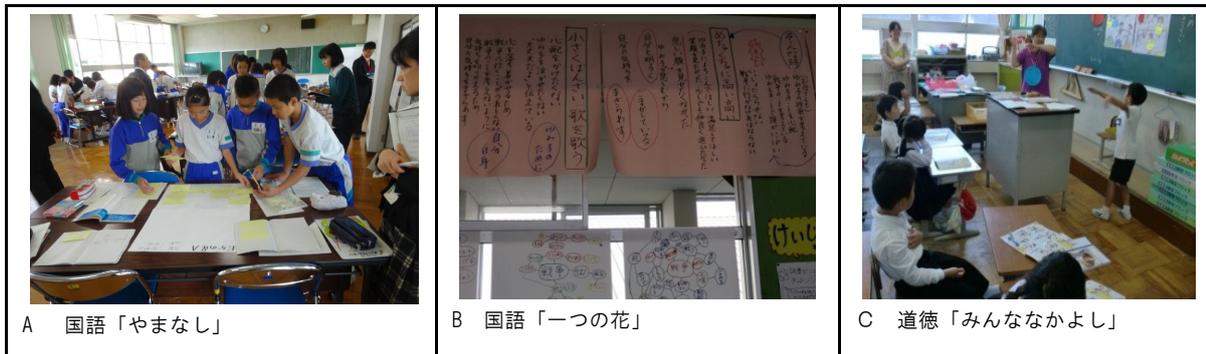
鯖江市では、授業のユニバーサルデザイン（UD）化による「わかる授業」の実践を、学校教育の基本方針としている。授業のUD化とは「特別支援教育の視点を全ての子どもへの指導に生かすこと」であり、「子どもにとってわかりやすい授業を行うこと」につながる。

授業をUD化するための重要な視点が「視覚化」「焦点化」「共有化」である。具体的には、「板書の構造化」「ねらいを明確にした授業」「課題を共有した授業」などが挙げられる。

例えば、立待小学校では、UD化の授業研究の進め方として、学習指導案に「視覚化」「焦点化」「共有化」の3つの観点を記載し、研究実践のポイントを明確にしている。

また、鳥羽小学校では、鯖江市が推し進めるUD化の授業づくりのために、校長が後押しして「ユニバーサルデザインのスタートブック」を学校独自に作成し、教職員と共通理解を深めながら、授業実践に取り組んでいる。指導主事訪問の授業等、他の教職員のすぐれた授業を、デジカメ等で撮ってコメントをつけて紹介し、教職員の授業力向上にも役立っている。

2 授業の実践紹介



A 国語「やまなし」

B 国語「一つの花」

C 道徳「みんななかよし」

6年「やまなし」(写真A)は、「やまなし」と「他の賢治の作品」を比べ、共通点について自分の考えをまとめる授業である。授業では、「やまなし」と自分が選んだ作品との共通点について話し合わせ、二つの作品での共通点という視点で宮沢賢治像を書く学習となる。「色を使った表現が多い」「オノマトペが多い」などの発言が生まれた。子どもたちが「ピラミッドランキング」（ワークショップでいくつかの事柄に優先順位をつける手法）をとることで、考えを整理し、共有化を図る実践となった（**視覚化**、**共有化**）。

4年の「一つの花」(写真B)の学習のねらいは、「父親のゆみ子に対する気持ちや願いを読み取ることができる」ことである。①「なぜにっこり笑ったのか」②「なぜ何も言わなかったのか」③「一つの花を見つめながら行ってしまう時のお父さんのセリフ」の3つに発問を絞っての学習展開とした（**焦点化**）。「今までの板書を模造紙にまとめ、絶えず読解のヒントを与え続ける」（**視覚化**）、「父親の、ゆみ子に対する気持ちを作品構造と関連させて読み進める」（**教材分析と視覚化**）などにより、文章全体と関連させた読みができるようになった。

1年の道徳「みんななかよし」の単元のねらいは、「思いやりの心をもって、友だちと仲よくしようとする」である。授業では、「仲よくするにはどうしたらよいか」を考えさせた。研究会では、①「にこにこの顔」「ぶんぶんの顔」「泣いた顔」の中で、「友だちの顔は、どんな顔だったかな」などと発問し考えさせることが、効果的な学習になった（**視覚化**）。②ソーシャルスキルの視点から、友達が泣いている場面を設定し、「どう声をかけたらいいのかな」の発問が、子どもの関心を高めていった（**焦点化**）。

3 実践の中での課題 「焦点化」について

「視覚化」の実践は、比較的容易にできる。しかし「共有化」と「焦点化」の実践は、容易ではなく、課題が多いと気づいた。「子どもの課題」を「教師の課題」として、位置付けることが大切になってくる。焦点化に的を絞り、「ねらい」を達成させる課題を共有しながら、視覚化・動作化を取り入れれば、全員が参加し、全員が思考する授業になるだろう。

4 まとめ UD化での「統合」へ

鯖江市では、各教科研究と特別支援教育を融合させたUDの授業を推進しているが、国語のコアティチャー養成事業や指導主事訪問の研究授業などで、授業研究を深めていったところ、UD化の授業実践も並行して質の高まりを見せた。

明星大学の小貫悟氏は、1月5日の講演会（鯖江市郷陽会館）において、「UDは最終的に『統合』である。1時間の授業の中で、『めあて』と『山場』を連結させ、山場を盛り上げていく実践が、『統合』の実践となる」という提言をされた。『めあて』と『山場』の連結は、深い教材研究に裏打ちされた実践になる。『統合』は、鯖江市の各学校における今後の実践課題である。

特別支援教育で活用できるICT教材の紹介 ～中学校・英語編～

近年、開発されているICT教材の中には教科学習につまずいている生徒の学習支援に有用なものもあります。ここでは、昨年発売された教材を紹介いたします。下記①のアプリは、英語学習に強い苦手感を抱き、プリントによる反復学習にも抵抗があった中学生が、「このアプリなら英語に取り組みそうだ」と自分のiPod touchにインストールしました。その生徒は「一回の学習量がちょうどよい」と話し、現在も活用しています。また、ある中学校では、下記②のアプリを学校備品のiPadにインストールし、通級指導の場面などで活用しています。

① 中学生用学習アプリ NEW HORIZON ドリル

スマートフォン用 (タブレットも可)

「新出語句」「文法」「リスニング」力を鍛える、一問一答式のドリル教材です。
 授業の予習・復習やテスト対策として活用できるアプリです。 制作: 東京書籍
 アプリ本体: 無料 有料コンテンツ ¥1,200 (各学年/一部コンテンツは試用可)
 (iOS 7.0以降 iPhone・iPad・iPod touch対応 / Windows8 / Android4.0.3以上)
 AppStore, Windowsストア, GooglePlay よりダウンロード



- ◆Word: 教科書の新出語句を学習します。一度の学習では4～5個の単語が、いろいろな角度から出題されます。(英語4択, 日本語4択, 英語入力など)
- ◆Grammar: 教科書の新出文法の基本文を学習します。1つの新出文法がいろいろな角度から出題されます。(英語4択, 並べ替え, 英語入力など)
- ◆Listening: 教科書英文の聞き取り練習をします。

【特徴】

- ・ユーザーの解答結果に応じて、出題される問題が変わります。
- ・ユーザーの苦手な問題が復習問題として必ず出題されます。
- ・解答後には必ず自動的に音声が再生されます。音声を繰り返し聞くことで、英単語や英文の定着をはかります。
- ・スケジュール管理: テストまでの学習スケジュールを設定する



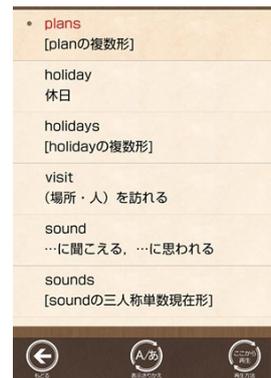
② 中学生用学習アプリ NEW HORIZON リスニング

タブレットPC用

中学校英語教科書「NEW HORIZON」の本文・新出語句の音声を聞くことができるアプリです。 制作: 東京書籍 ¥1,200(各学年/試用不可)
 (iOS 6.0以降 iPad対応 / Windows 8.1 / Android タブレット)
 AppStore, Windowsストア, GooglePlay にてダウンロード販売



- ◆本文画面
教科書本文の音声を聞くことができる画面です。以下の機能を使って、スピードを変えて音声を聞いたり、1文ずつあとについて発音したり、役割練習をしたり、さまざまなパターンで本文の学習ができます。
 ・音声再生 (ここから/ここだけ/ポーズ付き) ・音声スピード設定 (ふつう/ゆっくり/はやい) ・役割練習
- ◆新出語句画面
新出語句の音声を聞いたり、日本語訳を確認したりすることができる画面です。以下の機能を使って、1語ずつあとについて発音したり、日本語訳を見て対応する英単語を発音したりなど、さまざまなパターンで新出語句の学習ができます。
 ・音声再生 (ここから/ここだけ/ポーズ付き) ・表示きりかえ (英語のみ/英語+日本語訳/日本語訳のみ)
 上記のほか、タブレット上に再現された教科書紙面に、マーカー線を引いたり、自分の発音を録音したりする機能もあります。また、対話形式の教科書本文を実写化した映像 (英語字幕の表示可) も視聴できます。



シリーズ研修の報告 ～特別支援教育コーディネーター養成研修～

当センターで実施した特別支援教育コーディネーター養成研修について報告します。

特別支援教育コーディネーター養成研修

初めて特別支援教育コーディネーターに指名された教職員や、園・校内でコーディネーター的な役割を担う教職員が、特別支援教育コーディネーターに必要な基礎的知識や技能を身につけることを目的に実施しています。

今年度は、幼稚園4名、小学校25名、中学校20名、高等学校13名、特別支援学校9名の計71名が研修を受講しました。当センターでの年3回の研修会（特支校は年5回）と所属校での研修が1回、当センターの研修講座を2講座、受講していただいております。研修会では特別支援教育コーディネーターの実務について、講義や演習を通して学んだり、所属校の実践や現状について報告し合い、校内支援体制づくりについて考えを深めたりしました。また、受講者自らが、それぞれの所属校で、自校の課題に応じた研修を企画し、実施しました。

他の学校の先生方と各校の現状や課題を話し合ったことで、自分の学校の現状や課題をはっきりさせることができ、今後どのようにしていくとよいか考える良い機会になりました。また、幼稚園、小学校、中学校へのスムーズな移行支援の方法、現状の課題、各校の実態などを知ることができ、今後の移行支援に生かしていけるのではないかと思います。（小学校 教諭）

気になる生徒の支援について組織でどのように取り組んでいくとよいかについて学べました。また、現状を振り返ることで、今後どのような支援体制にするとよいか考えることができました。（中学校 教諭）



アンケートより

所属校での研修では、担当のセンターの先生に相談しながら、より発達障害への理解を深めたり、保護者や生徒へのかかわり方について学ぶことができました。校内で特別支援教育について考える上でも、とても有効でした。（高校 教諭）



第2研修 保護者支援についての演習の一コマ

実践研究発表会 報告

平成27年2月12日（木）当センターにおいて、実践研究発表会を開催しました。幼保園から高等学校まで幅広い校種の先生、医療、福祉、教育委員会や教職大学院の方など、様々な分野から 百名程度の参加がありました。午前中は、福井市清水東小学校の山本哲也氏から「自分の考えをもち、進んで学習し、伝え合う子の育成～ユニバーサルデザインの視点でみんながわかる授業・活動づくり～」の発表と、福井市大安寺中学校の小林直美氏からは「小、中が連携して行うことのできる特別支援教育の在り方」の発表がありました。この2つの発表を基にグループ協議を行いました。30分のグループ協議でしたが、熱心に意見交換し、時間が足りないくらいでした。「自分の考えを整理したり、自校のことを言語化したり、意見をもらったりすることで考えが深まった」「いろいろな立場の人と情報交換ができて、有意義だった」などの意見が多数あり、グループ協議は好評でした。

2つの実践発表やグループ協議の報告を受け、福井大学教職大学院の松木健一氏、小嵐恵子氏から助言をいただきました。小嵐氏からは、年齢が小さいうちからの途切れない支援と、そのための特別支援教育コーディネーターの役割の重要性について、松木氏からは、インクルーシブ教育やプロジェクト型の学習など、多様性を包括した今後の教育のあり方と、これからの子どもたちを育てていくための「チーム学校」の実現についてなど、示唆に富んだ助言をいただきました。

午後は、磯部幼稚園（磯部西幼保園）の田中幹恵氏から、子育てファイルふくいっ子を活用した子ども理解についての発表、武生高校定時制の堀田吉朗氏から、高等学校におけるユニバーサルデザインを取り入れた授業改善の発表、福井南特別支援学校の林田祐紀氏から、子どもの文脈を読んで語る授業改善についての発表と、その実践を支えた当センターの取組の発表がありました。「幼から高まで、様々な段階からの発表があったのが良かった。どのような立場においても、児童生徒を理解し、寄り添うことがやはり一番だと感じた。今一度自分自身の取組を見直していきたい」「日々悩んでいたことに対して具体的なヒントを見つけられた」「一歩踏み込んだ、大きな枠組みからの助言を聞かせていただき、進むべき方向性が見えた」などの感想がありました。

センターだより すくらむ第83号

発行日 平成27年3月2日

発行所 福井県特別支援教育センター

所在地 〒910-0846 福井市四ツ井2丁目8-1

TEL (0776)53-6574 FAX (0776) 52-6272

E-mail info@fukuisec.jp

URL <http://www.fukuisec.jp>

